第４　バリアフリー推進にあたっての課題

１　バリアフリー全般の課題

(1)　高齢化に伴う継続的なバリアフリー化の取組

本市の高齢化の進行は今後も続くことが予想され、障がい者等を含め、誰もが安心して暮らせるためには、持続的なバリアフリー化の取組が求められます。

バリアフリー化の推進にあたっては、短期的なバリアフリー整備だけでなく、長期的な視点をもち、バリアフリーのまちづくり、市民が助け合うまちづくりに取り組む必要があります。

(2)　利用者ニーズを捉えた効果的なバリアフリー化

高齢者や障がい者のほか、妊婦や子供などを含めると、移動や施設利用に関して多様なニーズが考えられます。こうしたことから、ユニバーサルデザインの理念に基づいた、誰もが使いやすいバリアフリー整備とともに、ハード、ソフト両面から効果的なバリアフリー化に取り組むことが求められます。

２　交通に関する課題

(1)　交通ネットワークのバリアフリー化

合併により本市は広い市域を有しましたが、その移動にはマイカーを利用する割合が高く、今後、高齢化の進行により、マイカーを運転できなくなる人や交通事故の増加が懸念されます。

既存のＪＲ線やバス路線を活かし、利用支援などのソフト対策と連携することで各地域や施設間を安全で快適に移動することができるような、公共交通ネットワークのバリアフリー化が求められます。

(2)　施設間を円滑に移動できるバリアフリー化

各旅客施設や公共施設のバリアフリー化は個別には進みつつありますが、それらを結ぶ歩行環境や公共交通環境に不便を感じている高齢者や障がい者等が多くみられます。

個々の目的に合わせて、誰もが利用する施設間を不自由なく円滑に移動できるように、一体的かつ計画的なバリアフリー化が求められます。

３　主要な施設の課題

(1)　多くの人が利用する施設のバリアフリー化

人口減少下において交流人口の拡大は、本市の活性化を図るうえでも重要であり市民だけでなく、来訪者などにも利用しやすい施設のバリアフリー化が求められます。

特に、不特定多数の人が利用する主要な施設は、重点的にバリアフリー化を進めていくことが求められます。

(2)　市民参加によるバリアフリー整備

効果的なバリアフリー化を促進していくためには、施設の計画策定・整備にあたって、高齢者、障がい者等やその他の一般利用者等の意見を聞きながら、市民参加による事業実施を行い、利用者のニーズを反映したバリアフリー整備が求められます。

４　市民意向からの課題

(1)　市民のバリアフリーへの理解の醸成

高齢者や障がい者等へのアンケート調査やヒアリング調査では、市民のマナーの問題や、市民や事業者等の障がい等に対する理解や支援に関する意見も多く、市民一人ひとりがバリアフリーへの理解を深め、互いに支え合うことによって実現する「心のバリアフリー」を推進していくことが求められます。

障がい者マークが表示されている施設を利用する際は、障がい者等への配慮が求められます。

(2)　関係機関や各事業主体によるバリアフリー化の連携

高齢者や障がい者等へのアンケート調査やヒアリング調査では、道路などの歩行環境とともに、旅客施設、交通機関に対する問題を指摘する意見も多く、一体的なバリアフリー化を推進するためには、関係機関や各事業主体へのバリアフリー化の周知とともに、連携と協働による取組が求められます。

バス事業での職員研修

秋田県バス協会では、高齢者や障がい者等のバス利用に際しての接客マナーなどの向上を図るため、毎年、県内のバス事業者の職員を対象に研修を実施しています。

高齢者を対象とした市民アンケート（平成２２年度）では、バス乗務員の接客は高く評価されており、こうした研修が着実に実を結んできています。

車いす体験の様子

高齢者疑似体験の様子